



岡屋歌集

~4
2256



国屋歌集序



縣屋の主人ハ口戸多おーたあひいんと其布つふは遠江の東

て代いさありの郡の三郎の里よりまよふらん加茂の古神小

使をよむ空々人少きもあらん其主人おあをる教よ

さけのま中ふけをの草の棠田のぬきも其おれりあわ

の城割の郡の手をの里の廣情の八幡古印の印まよして

あめりこいあらん 神代の草草もいりしうあめりこ

ふりやあやうーちるひあかんあらんいしもあなげしき

あさあれむあうろそし 彼をくめんあさあさあ

あふいんあさあわあありあふあわくちあさあ



くまのちやい〜くちやう〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

國屋の家集の巻

運石玉母の郎平屋を母のけりよはたのハ幅の

ちやうとやい〜は〜も・楽留のぬきを島共のた〜

あつ〜とち〜とま〜初〜かのちやうとやい〜

あつ〜とち〜とま〜初〜かのちやうとやい〜

あつ〜とち〜とま〜初〜かのちやうとやい〜

あつ〜とち〜とま〜初〜かのちやうとやい〜

あつ〜とち〜とま〜初〜かのちやうとやい〜

あつ〜とち〜とま〜初〜かのちやうとやい〜

くけい草のあをききしとちいふたあかやあひぬ
たぬきかへんえあひとふんぬいひあひぬ
あきふしとふしとあきふしとあきふしと
のなほおにかの橋のらたえりあ

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the Japanese text on the left page.

閑屋歌集上巻

長歌短歌

後五位下藤原朝臣土満詠

春のけのし

梓弓春さくくたをこつたあをききとぬらな
草木わすしと一年のはおとさるはまきみのゆき
かろくさうえむあかほちのゆき

反交

茅のひのもろさそのゆきより幾交年のくらえむ
まきしとる日とあか

まらほらのらのまきしとあかきとまきしとまきしと

おきらーやーやーいぬきあゆめ梅もさくらもさくらー

梅子

去年のたてはらあそび梅のをさくらもさくらそそえをいぬ

春の水とあそび

月讀のしるしをら水とら守りきりあそびと氷とけり

○あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

梅子

あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

初春眺望とらあそび

あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

二月とらあそびと水とら守りきりあそび

○あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

梅子

あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

○あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

梅子

あそびと水とら守りきりあそびと氷とけり

初春の心こころしき

いそぐより春の心まぬらんこころしき山はなほ雪かやあをさし

初春宴

春の心はこころしきまきてあはれかき一遊りむ酒のきあはれ

海辺を春こころしき

海は深きあはれさしあはれもあはれおのころはゆきまきし

二月朔の日布士の山まきしりか

日の春の不このきゆきあはれあはれ八十唐のむもきりやきむ

なまらるる待りしきゆきあはれあはれ朝のゆきふ不この白を

若菜

春の心まきえまきえんもゆきのあはれ一里の心まきあはれ

あはれ山あはれまきえんもゆきのあはれ一里の心まきあはれ

山あはれまきえんもゆきのあはれ一里の心まきあはれ

名所の若菜こころしき

みまきく一水あはれまきえんもゆきのあはれ一里の心まきあはれ

月あはれ若菜の心まきえんも

春のおの月あはれまきえんもゆきのあはれ一里の心まきあはれ

子

初春の心はこころしきまきてあはれかき一遊りむ酒のきあはれ

海上夕雲のふりかへ

わしの身もあはれなる夕雲もは枝のちるはら 夕雲のふりかへ

朝雲

明たるとききし夕雲のふりかへ 夕雲のふりかへ

春のあ

夕雲のふりかへ 夕雲のふりかへ

夕雲のふりかへ

春のふりかへ 夕雲のふりかへ

夕雲のふりかへ 夕雲のふりかへ

夕雲のふりかへ

夕雲のふりかへ 夕雲のふりかへ

雪中雲

花を雪にゆきとて 夕雲のふりかへ

雨中雲

春の雨のはききし 夕雲のふりかへ

夕雲のふりかへ

夕雲のふりかへ 夕雲のふりかへ

夕雲の根の長き 夕雲のふりかへ

夕雲のふりかへ 夕雲のふりかへ

ちる見子の草ももまきよの草もまきよの草もまきよの草も

雪草

散るもももまきよの草もまきよの草もまきよの草も

雪草

雪の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

梅の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

雪の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

雪の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

残雪

草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

梅

雪の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

梅の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

梅の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

梅の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

梅の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

梅の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

中の草

梅の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

梅の草もまきよの草もまきよの草もまきよの草も

云々

云々

芳柳もあはれきく春の光のよもやうなはまのけりさく
六四川にそよ風のそよおそよよふさふさのよもやうな
西中柳よりあはれきく

春の光のよもやうな芳柳のよもやうなけりさく

柳の柳

春の光のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

春の光

春の光のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

柳の柳のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

帰雁

帰雁

春の光のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

二月は

春の光のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

春の光のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

春の光のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

春の光のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

春の光のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

春の光のよもやうな誰より柳のよもやうなけりさく

水邊のうた

水邊のうたをうたうと水邊のうたをうたうと

旅夜

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜をうたうと

旅夜をうたうと旅夜をうたうと

旅夜

夜満心

あつちの山はなほららるるの木の葉のあふもやふたふたのあふも

あつちの山はなほららるるの木の葉のあふもやふたふたのあふも

あつちの山はなほららるるの木の葉のあふもやふたふたのあふも

あつちの山はなほららるるの木の葉のあふもやふたふたのあふも

夜満心

あつちの山はなほららるるの木の葉のあふもやふたふたのあふも

あつちの山はなほららるるの木の葉のあふもやふたふたのあふも

あつちの山はなほららるるの木の葉のあふもやふたふたのあふも

あつちの山はなほららるるの木の葉のあふもやふたふたのあふも

あつちの山はなほららるるの木の葉のあふもやふたふたのあふも

雉子

少年のついでに 鳥のさあしを きー きー きーと 声を出して
折つてきー きー きーのよ ああ のつらよ ああやあ
折つてきーのつらよ ああ のつらよ ああやあ
春のつらよ ああ のつらよ ああやあ

苗代

蛙のついでに 苗代のつらよ ああ のつらよ ああやあ
蛙のついでに 苗代のつらよ ああ のつらよ ああやあ
蛙のついでに 苗代のつらよ ああ のつらよ ああやあ
蛙のついでに 苗代のつらよ ああ のつらよ ああやあ
蛙のついでに 苗代のつらよ ああ のつらよ ああやあ

蛙

蛙のついでに 蛙のつらよ ああ のつらよ ああやあ
蛙のついでに 蛙のつらよ ああ のつらよ ああやあ
蛙のついでに 蛙のつらよ ああ のつらよ ああやあ
蛙のついでに 蛙のつらよ ああ のつらよ ああやあ
蛙のついでに 蛙のつらよ ああ のつらよ ああやあ

春歌

春のついでに 春のつらよ ああ のつらよ ああやあ
春のついでに 春のつらよ ああ のつらよ ああやあ
春のついでに 春のつらよ ああ のつらよ ああやあ
春のついでに 春のつらよ ああ のつらよ ああやあ
春のついでに 春のつらよ ああ のつらよ ああやあ

穴

穴のついでに 穴のつらよ ああ のつらよ ああやあ
穴のついでに 穴のつらよ ああ のつらよ ああやあ
穴のついでに 穴のつらよ ああ のつらよ ああやあ
穴のついでに 穴のつらよ ああ のつらよ ああやあ
穴のついでに 穴のつらよ ああ のつらよ ああやあ

在

をなすはしり原りてはあのみさしりて
枯らとさしりてあのみさしりて
はなはくさしりてあのみさしりて

あはくさしりてあのみさしりて
あはくさしりてあのみさしりて

あはくさしりてあのみさしりて
あはくさしりてあのみさしりて

あはくさしりてあのみさしりて
あはくさしりてあのみさしりて

あはくさしりてあのみさしりて
あはくさしりてあのみさしりて

あはくさしりてあのみさしりて
あはくさしりてあのみさしりて

あはくさしりてあのみさしりて
あはくさしりてあのみさしりて

あはくさしりてあのみさしりて
あはくさしりてあのみさしりて

あはくさしりてあのみさしりて
あはくさしりてあのみさしりて

新樹

Handwritten cursive text, top line on the right page.

Handwritten characters, possibly a signature or date, below the top line.

Handwritten cursive text, second line on the right page.

Handwritten characters, possibly a signature or date, below the second line.

Handwritten cursive text, third line on the right page.

Handwritten cursive text, fourth line on the right page.

Handwritten cursive text, fifth line on the right page.

Handwritten characters, possibly a signature or date, below the fifth line.

Handwritten cursive text, sixth line on the right page.

Handwritten cursive text, seventh line on the right page.

Handwritten cursive text, eighth line on the right page.

Handwritten cursive text, ninth line on the right page.

Handwritten cursive text, tenth line on the right page.

Handwritten cursive text, eleventh line on the right page.

Handwritten cursive text, twelfth line on the right page.

Handwritten cursive text, thirteenth line on the right page.

Handwritten cursive text, fourteenth line on the right page.

Handwritten cursive text, fifteenth line on the right page.

Handwritten cursive text, sixteenth line on the right page.

Handwritten cursive text, seventeenth line on the right page.

反欲

Handwritten cursive text, first line on the right page.

Handwritten cursive text, second line on the right page.

Handwritten cursive text, third line on the right page.

Handwritten cursive text, fourth line on the right page.

Handwritten cursive text, fifth line on the right page.

Handwritten cursive text, sixth line on the right page.

Handwritten cursive text, seventh line on the right page.

Handwritten cursive text, eighth line on the right page.

Handwritten cursive text, ninth line on the right page.

Handwritten cursive text, first line on the left page.

Handwritten cursive text, second line on the left page.

Handwritten cursive text, third line on the left page.

Handwritten cursive text, fourth line on the left page.

Handwritten cursive text, fifth line on the left page.

Handwritten cursive text, sixth line on the left page.

Handwritten cursive text, seventh line on the left page.

Handwritten cursive text, eighth line on the left page.

Handwritten cursive text, ninth line on the left page.

Handwritten cursive text, tenth line on the left page.

Handwritten cursive text, eleventh line on the left page.

Handwritten cursive text, twelfth line on the left page.

Handwritten cursive text, thirteenth line on the left page.

Handwritten cursive text, fourteenth line on the left page.

Handwritten cursive text, fifteenth line on the left page.

Handwritten cursive text, sixteenth line on the left page.

Handwritten cursive text, seventeenth line on the left page.

Handwritten cursive text, eighteenth line on the left page.

Handwritten cursive text, nineteenth line on the left page.

Handwritten cursive text, twentieth line on the left page.

鳥の鳴き声のまじりかき一羽の鳴き声は多岐にわたる
かゝる聲を聴くは一とある所の鳥も驚かするを船よき

鳴神子

その心もたえずとて鳥の鳴き声は
平らな心もたえずとて鳥の鳴き声は

身歎

身歎の心もたえずとて鳥の鳴き声は

蓮心

蓮心の心もたえずとて鳥の鳴き声は

蓮心の心もたえずとて鳥の鳴き声は

蓮心の心もたえずとて鳥の鳴き声は

蓮心の心もたえずとて鳥の鳴き声は

鳥心

鳥心の心もたえずとて鳥の鳴き声は

鳥心の心もたえずとて鳥の鳴き声は

蚊心

蚊心の心もたえずとて鳥の鳴き声は

蚊心の心もたえずとて鳥の鳴き声は

蚊心の心もたえずとて鳥の鳴き声は

とるはらとらうらふりやうと暮らうからたえはれ
くし

なほはら天のそとくはらうたくとはらやあらうらむ

はら

細のうらはらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

はらうらむはらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

あらうらむ

とるはら天のそとくはらうらむはらうらむはらうらむ

はらうらむはらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

はらうらむはらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

腹身蟬者

蟬のうらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

はらうらむはらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

はらうらむはらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

はらうらむ

はらうらむはらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

はら

はらうらむはらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

はらうらむ

はらうらむはらうらむはらうらむはらうらむはらうらむ

夕草子

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

いさよ

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

いさよ

朝平公の文一

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

いさよ

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

いさよ

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

花の影をうけてはさすかきとて花のようなふりて

Handwritten cursive text, likely a list or notes.

杜也

Handwritten cursive text, likely a list or notes.

Handwritten cursive text, likely a list or notes.

Handwritten cursive text, likely a list or notes.

Handwritten cursive text, likely a list or notes.

Handwritten cursive text, likely a list or notes.

Handwritten cursive text, likely a list or notes.

Handwritten cursive text, likely a list or notes.

鹿

Handwritten cursive text, likely a list or notes.

京下の...⁴⁵...

...

...
...
...
...
...

...

...
...
...

...

...

...

...
...
...
...

...

...
...
...
...

...

...
...
...

...

昔々草のたつと、
草花のつと、
草花のつと、

花のつと

花のつと、
花のつと、
花のつと、

花のつと、
花のつと、
花のつと、

花のつと、
花のつと、

花のつと、
花のつと、

花のつと、
花のつと、

花のつと、
花のつと、

花のつと、
花のつと、

花のつと、
花のつと、

花のつと、

花のつと、
花のつと、

朝花

朝花のつと、
朝花のつと、

花のつと

花のつと、
花のつと、

花のつと

花のつと、
花のつと、

花のつと、
花のつと、

花のつと、
花のつと、

其の如くしては、
其の如くしては、

其の如くしては

其の如くしては、
其の如くしては、

其の如くしては

其の如くしては、
其の如くしては、

其の如くしては

其の如くしては、
其の如くしては、

其の如くしては

其の如くしては、
其の如くしては、

其の如くしては

其の如くしては、
其の如くしては、

其の如くしては

其の如くしては

其の如くしては、
其の如くしては、

其の如くしては

其の如くしては、
其の如くしては、

其の如くしては

其の如くしては、
其の如くしては、

其の如くしては

其の如くしては、
其の如くしては、

おたのしみは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれ

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

おれは... ちかちか... ちかちか... ちかちか...

鹿をのちをきりぬきしに...

川名

心よりききしとて...

ゆきりし...

ねん...

おまのたまをきりぬきし...

ほろり...

おまのたまをきりぬきし...

寒圍同霰...

おまのたまをきりぬきし...

天をきりぬきし...

早秋

梅の枝をきりぬきし...

一年の...

考へぬ...

二年の...

限る日...

嵐集は...

紫々く...

あはれなるかな

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

あはれなるかな

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

園屋歌集下の巻

長歌みよの歌

後者下藤原朝臣土満

初巻の巻

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

忍待

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

待

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな

あはれなるかなあはれなるかなあはれなるかな



今更に昔もかかるといふに
鳥のこゝろはかかるといふに
かゝる不慮をともす

あつたに心もかかるといふに
かゝるに心もかかるといふに

逢ふはあつた

かゝるに心もかかるといふに

かゝるに心もかかるといふに

かゝるに心もかかるといふに

かゝるに心もかかるといふに

別名

かゝるに心もかかるといふに

春名

かゝるに心もかかるといふに
遠くかかるといふに
かゝるに心もかかるといふに
かゝるに心もかかるといふに
かゝるに心もかかるといふに

かゝるに心もかかるといふに

まきと神のらりて桂の園のまきと秋のころのまき

秋意

秋意のかきまのまきと秋意のまきと秋意のまきと
秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

恨

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと秋意のまきと

梅子竹とつた少むきいひのまきまきまのりりりり

厭吃とつた

水とあつたの神とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

八段とつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

いふとつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

いふとつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

いふとつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

いふとつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

いふとつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

いふとつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

いふとつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ

三三三
三三三
三三三

くはるるをわづらひのあそびのしるしをきかすかゝるるを
梓らしき舟のまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを
あしき

かろしき舟のまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを

けしき

あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを
あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを

あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを

あそび

あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを
あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを

あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを

あそび

あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを

あそび

あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを

あそび

あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを

あそび

あそびのまらしたるにわかたはるるにわづらひのまらしたるを

あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

あつちのうらなひ
あつちのうらなひ
あつちのうらなひ

カボチノ葉は... 八咫鏡

孝經云

孝者天之經也... 孝者天之經也

孝杖云

孝子之於親也... 孝子之於親也

孝之於親也... 孝之於親也

孝杖云

孝子之於親也... 孝子之於親也

孝杖云

孝子之於親也... 孝子之於親也

孝杖云

孝子之於親也... 孝子之於親也

孝杖云

孝子之於親也... 孝子之於親也

孝杖云

孝子之於親也... 孝子之於親也

孝杖云

孝子之於親也... 孝子之於親也

孝子之於親也... 孝子之於親也

孝子之於親也... 孝子之於親也

*

美香の歌のたぐいしあはれなれうきなれうきなれうき
いとせしむらひのうらみはなれうきなれうき

まはるもこのなれうきなれうきなれうきなれうき

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あはれなることありき

信じておぼゆることありき のち

。此の如くしては、

かゝるやうにしては、

君の如くおぼゆることありき

。此の如くしては、

此の如くおぼゆることありき

。此の如くしては、

。此の如くしては、

。此の如くしては、

。此の如くしては、

。此の如くしては、

。此の如くしては、

。此の如くしては、

。此の如くしては、

。此の如くしては、

。此の如くしては、

。此の如くしては、

言をあたへておぼゆることありき

。七月は、甲斐の如く、

+

と暮しうて二ッ方清らして別へるゝ月斗ら

之事今に西少ゆむとらる也

行ふか別へるゝ一ッ方一ッ方とらるゝ

旅の身とらるゝ

若くしちやふあぬをそとて是なるゝ況なきに

14400 并

伊勢の汁めつちまの考へるゝ水のくさるゝや

山ふさくゝ

くさるゝけつちめつちの考へるゝ

教知の別へるゝ

拙作にけつちめつちの考へるゝ

海つちめつちの考へるゝ

くさるゝの汁めつちの考へるゝ

生御さねとらるゝ

やまの考へるゝ

久方の天つちの考へるゝ

くさるゝの考へるゝ

まじりくさるゝ

くさるゝの考へるゝ

おぢんとらるゝ

鏡又ふりかゝるに玉くさきおとするまろく

いけらふゆたると其におうりふくまきんしけの

飛ちてて一字一やうらふやうらふからそのれ

ははらやわれまろくちやくけいにまふみ

飛津ともしほくとも

中々といふのかのわらわらわらわらわら

たまらう。まのまのまのまのまのまのまのまの

本にかくと曲らまじ其曲はつり一糸とあて

くまらふよふまのまのまのまのまのまのまの

多もちしやさきもちしししししししししししし

おのりて飛出るとおのりてすてりしやま

又回わりみるまじまじりやまあるまは

まのほららうはあうりおまを海瀬

まのほららうはあうりおまを海瀬

都郡のまをうりまのまのまのまのまのまの

枚をまのまのまのまのまのまのまのまの

天やや極くはのれまもまもまもまもまもまも

神は衣をうりまのまのまのまのまのまのまの

あつたわら

つとよの信之の足下の御事一里本を馬をさす
けいせきをさすむかひなき
おまかせぬあゆみ日よみ七日と忘るるか
まて松の木のやうにほして年々うらやま
るひなき

孝養の徳とす

おまかせぬおまかせぬおまかせぬ
あれは孝の徳とす
ほれ^七おまかせぬおまかせぬおまかせぬ

孝の徳とす

かきくおまかせぬおまかせぬおまかせぬ

孝の徳とす

おまかせぬおまかせぬおまかせぬ

孝の徳とす

おまかせぬおまかせぬおまかせぬ

孝の徳とす

おまかせぬおまかせぬおまかせぬ

孝の徳とす

木花の葉のふたふたを果て海をうつすよのひとほさし

江家のまのひるの竹の指をのちつやこりた

しづかにうらやまふあはれいづか

あやめしよのうらやまをねきふらうらうらとて

葉のまきねをわけてなまらむとすうの

松柳のまを伴ふおののけりて

まろちあしをうらやまのちまのうらやまはる

かたがはしをわすれしあはれいづか

はらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうら

そまから藤のうらうらうらうらうらうら

卯日けりしあはれいづか

ええまのあはれいづか

やうらうらうら

月とてまをうらうらのまをうらうらうら

江家のまをうらうらのまをうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうら

木花の葉のふたふたを果て

あか

いふしるこはく井のうらまひて 田舎の水をいせり

池とよこまほま峰切即佐倉村よりかきこるる

いふ大まきり池にあり男世女世より年ぬり秋のし

かんの中よりよき山砂をいせりて 谷地、佐あと

まきり池のありて 谷斗はうり 谷より曲櫃の中らす

ふるるとまきり池のありて 其上に井ありし力のよ

いふまきり池のありて 便りよき池を午の時はうらまひ

いふまきり池のありて 池の中よりおきりお底へ押入れ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

いふまきり池のありて 池のふちよりおきりお底へ

あはれなる人々をば
あはれなる人々をば
あはれなる人々をば

あはれなる人々をば
あはれなる人々をば
あはれなる人々をば

寛政三年十一月

あはれなる人々をば

あはれなる人々をば
あはれなる人々をば
あはれなる人々をば

あはれなる人々をば
あはれなる人々をば
あはれなる人々をば

あはれなる人々をば
あはれなる人々をば
あはれなる人々をば

そとにわのこひや

羅中友とていふ

君をたかくもけりていとよき人なり

玉ちげしやうもらひてはけりていとよき人なり

ふりてはけりていとよき人なり

ふりてはけりていとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

釋教

あはれにうらみもいとよき人なり

あはれにうらみもいとよき人なり

海防とりのま

日中のきまきりやあやふしとて海軍のあめ浦名のとた

日

天の東一は二たところへついでききあふる。日北ちちうけ

流子

そはきりうそあてなきうそくわ水分うそまぬきうそ

不書意のうそあふる

およむ海防のあてあられなきとてすうかたのまじりも

あやふしとあはれぬ。井のうそあふる。海軍のうそあふる

天のうそあふる。あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ

あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ

あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ

あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ

あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ

あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ

美田村煙とり少見と

あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ

あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ

あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ。あやふしとあはれぬ

松積年とくわん

おまのやあをうらぬまゝ一年保きみとるむ
考人のたよおまをうらぬとて、いふおま
とあつた

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

儀式部のうら

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

二箇をうらぬまゝ一年保きみとるむ

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

神祇

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

社

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

社

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

おまのほをうらぬまゝ一年保きみとるむ

くろしきくちの鳥をけしきあひてお解
ていしんか

しりぞ相らひしを待しる早くんはきみまふれむ

堀江勝延の庭や池とそせし庭の形をうく

唐のきこをよみしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

臨海阜 修竹林 鳴旭岡

夏の秋のきこをよみしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

くはるしりくはるるに斗

よあやふらんぬののまゝ **いさ**のまきまのつたはたし水
たけおとしくろくすもあつちかくあつちかく **いさ**
は

水たまりは氷の井とくくまきくまきくまきくまきく
いさのまきまのつたはたし水

いさのまきまのつたはたし水
幾も代もまきまのつたはたし水

かのつたはたし水
天のつたはたし水の根のまきまのつたはたし水

つたはたし水
ちのつたはたし水の根のまきまのつたはたし水

月おとあつち水
月おとあつち水の根のまきまのつたはたし水

ちのつたはたし水
ちのつたはたし水の根のまきまのつたはたし水

ちのつたはたし水
ちのつたはたし水の根のまきまのつたはたし水

ちのつたはたし水
ちのつたはたし水の根のまきまのつたはたし水

ちのつたはたし水
ちのつたはたし水の根のまきまのつたはたし水

何事もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

御心もあやうき事なきはくらすまの御心

かろくまう

あきしんよふとともういぬまをつらつちとらけしよ
かろくまうのひんこくせしな也

和年久とすのこと

久方のまのかけらち申たえつしや氏とてきつしきまら

周智郡 新集山十と年八月九月の程同休と

いふゆきてまこふしとあまのまはつとす

五月のくはるたるまきとらげんまたらかま

カ月げつとすこよと

まにまのあひうたをまきとらたふあけしおおまひ

まらうくはらとまのうらまをいふとくはらと

たふしきと名あつたけりまふと辰とまらみらりまひ

ちらとたけきうたもぬぬとと一はきまらまは

いふとまらまらとまらとまらとまらとまらと

けつととらつとあつとたまひとらつとたつとあつと

すまらとまらとまらとまらとまらとまらと

内り刺とまらとまらとまらとまらとまらと

あまきとまらとまらとまらとまらとまらと

まねたつと踏とつちまらと寝とつちまらと

めりまのよまらとまらとまらとまらとまらと

あやうけの 檜らあもけえん 五檜の 俣もまねは
せしむる ちりきもよこあえもよこらけし 下ま
らりのあやうけの 一いけしあのあやうけの
ひらけしあのあやうけの 一いけしあのあやうけの
く下もあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあ

あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの

年月のあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの
あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの

空撃のあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの
あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの

あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの
あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの

あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの
あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの

あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの
あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの

あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの
あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの

あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの
あやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけのあやうけの

姉もまた夜に書きなまりと書きてしるしをよめりしに
し事ハいふる同えなむいふたしなむいふたしはのほ
現も書しもさしあやまちを別り後を少かしくし

己巳日十

更なるも同をせまぬめり一月のうらさし
さしめたりはうみりうらさし

卯七付のうらさしめりし事ハいふたしはのほ
人のしるしめりし事ハいふたしはのほ

尺下客の者もさしあやまちを別り後を少かしくし
其後人のや知るえりし事ハいふたしはのほ
人のしるしめりし事ハいふたしはのほ

かろふとはふくきめりし事ハいふたしはのほ
赤も竹をすりめりし事ハいふたしはのほ

そらあやまちあやまちめりし事ハいふたしはのほ
たしあやまちめりし事ハいふたしはのほ
はらめりし事ハいふたしはのほ
かろふとはふくきめりし事ハいふたしはのほ
かろふとはふくきめりし事ハいふたしはのほ
かろふとはふくきめりし事ハいふたしはのほ
かろふとはふくきめりし事ハいふたしはのほ
かろふとはふくきめりし事ハいふたしはのほ

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

みづはりのいり

からきたおちおちしてき申のかいさくひをアツてくる女

高き足基う女のまうらうしつとてはつらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

現もおちおちしてき申のかいさくひをアツてくる女

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

たきくまのうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

母のまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

Yonin no

七ノ月ノ一日ニシテ...

美良ノ子ノ田中...

カキ...

芦妻の...

あや...

あう...

く...

あ...

た...

あ...

ら...

か...

あ...

七月廿二日

秋毎...

あ...

あ...

現...

あ...

吾母はかえをきくつこはきくはるをきく
海もかきくつこゆめやうきくきくつこ
あつめ

かきくつこはるをきくつこはるをきくつこ
其後あつめは形として一冊を這らぬる
きくつこはるをきくつこはるをきくつこ

更あつめはるをきくつこはるをきくつこ
京もかきくつこはるをきくつこはるをきくつこ
まきくつこはるをきくつこはるをきくつこ

空想の在るつこはるをきくつこはるをきくつこ
貞女なる母のお月はるつこはるをきくつこ
まきくつこはるをきくつこはるをきくつこ

夢中の女はるつこはるをきくつこはるをきくつこ
まきくつこはるをきくつこはるをきくつこ
まきくつこはるをきくつこはるをきくつこ

あつめはるつこはるをきくつこはるをきくつこ
つこはるつこはるをきくつこはるをきくつこ
まきくつこはるつこはるをきくつこはるをきくつこ

まきくつこはるつこはるをきくつこはるをきくつこ
まきくつこはるつこはるをきくつこはるをきくつこ
まきくつこはるつこはるをきくつこはるをきくつこ

...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...

...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...
 ...はつらつと...

又しよとあはれとていふにんかきかきいふにちまらふにぬらふ
まじくおきくものまきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
おきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
らうきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
あやきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
いんかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
祝

皇太子のちかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
きかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

君が代のおきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
駐りかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

あうあうえええええええええええええええええええええええ
あうあうえええええええええええええええええええええええ

あうあうえええええええええええええええええええええええ
あうあうえええええええええええええええええええええええ

あうあうえええええええええええええええええええええええ
あうあうえええええええええええええええええええええええ

あうあうえええええええええええええええええええええええ
あうあうえええええええええええええええええええええええ

あうあうえええええええええええええええええええええええ
あうあうえええええええええええええええええええええええ

伊予守遠條の母の八丁の御方

行まはしるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

御座るのうす女侍

國さうとるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

くばるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

國さうとるあ

まはしるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

くばるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

まはしるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

くばるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

まはしるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

くばるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

まはしるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

くばるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

す

日さうとるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

くばるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

まはしるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

くばるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

まはしるるあつめ女侍にあらまけしめあたまをなれ

ほのちのちをばかしくたすむるの事やとてふはまじき事なり

~~~~~

天のちやまをばかしくたすむるの事やとてふはまじき事なり

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

~~~~~

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

~~~~~

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

~~~~~

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

~~~~~

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

~~~~~

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

~~~~~

まじき事なりとてふはまじき事なりとてふはまじき事なり

~~~~~

昔よりはしりてしるをたすまふてふんを代とあらはむ

借礼をりけしりてふん

より代をかりしるをえんへの玉をけらむとてふんを

あて記

君とてふんをかりてふんをたすまふてふんを

飯田とてふんをかりてふんをたすまふてふんを

官懐の中社とてふんをたすまふてふんを

君より代をかりしりてはまの代をかりてふんを

あらむりてふんをかりてふんをたすまふてふんを

りやふと

昔よりてふんをかりてふんをたすまふてふんを

たのふんをかりてふんをたすまふてふんを

たのふんをかりてふんをたすまふてふんを

昔よりてふんをかりてふんをたすまふてふんを

たのふんをかりてふんをたすまふてふんを

たのふんをかりてふんをたすまふてふんを

たのふんをかりてふんをたすまふてふんを

たのふんをかりてふんをたすまふてふんを

たのふんをかりてふんをたすまふてふんを

たのふんをかりてふんをたすまふてふんを

かげらなまのりもあはれをいそさはあきききもいけ
るまふはあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
らあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

Memorandum

と家二年子中々月終りいじり本為実思のからしり
かうえりうりうりうりうりうりうりうりうりうり

Memorandum

以後四年八月字うりうりうり 杉山養 首根

Memorandum

